

交通安全・あいさつキャンペーンが行われました。

1月11日(木)の朝、「交通安全・あいさつ運動キャンペーン」が行われました。保護者や地域の皆様、地区市民センター職員の方々、駐在所のおまわりさんなど、水沢地区に関わる皆様で、子どもたちの登校を見守っていただきました。朝の寒い中、忙しい時間帯に、子どもたちの登校の様子を見守っていただき、本当にありがとうございました。改めて地域の皆様に、子どもたち一人ひとりが大切にされていることを実感することのできる時間となりました。

**一度見てほしい映画、読んでほしい小説の紹介です。**

私は、冬休みの期間中に1本の映画を見ました。「あの花が咲く丘で 君とまた出会えたら」という題名です。これまで58年間生きてきた中で一番感動した映画でした。本当のことを言うと2日(火)に1回目、8日(祝・月)に2回目の合計2回見に行きました。時間があればもう一度「3回目を見たいなあ」と思うぐらいの映画でした。現在、イオンシネマ東員・鈴鹿、109シネマズ四日市などで上映されています。

毎日にイライラしてうんざりした毎日を送る高校3年生の百合(ゆり)が母親とけんかをして家を飛び出し、通学路途中にある洞穴で眠ってしまいます。目覚めると、太平洋戦争のあった1945年6月の戦時中に突然タイムスリップをしていました。途方に暮れ歩いていると、偶然近くを通りかかった彰(あきら)に助けられます。たくさんの人に救われながら毎日を送る百合は彰に惹かれていきますが、彼は特攻隊員で、もうすぐ命を絶つ運命を背負っていました。主人公の百合が感じる悲しすぎる感情がリアルで複雑に描かれています。少しだけ、この時代に生きた人の気持ちを想像できる作品だと感じました。戦時中の自由のない暮らしの中で、家族やなかまを大切に愛する心を持った登場人物の姿に心をうたれました。映画のラストが予想外の展開で、より感動しました。

この映画は「命」「生きる」ということについては何か、を考えさせられる物語でした。鹿児島県出身の元高校国語教員であった汐見夏衛(しおみなつえ)先生が書き下ろした、SNSを中心に「とにかく泣ける」と話題になった連続小説が映画化されたもので、ひょっとすると皆様の中にも「映画を見たことがある」



「小説、漫画を読んだことがある」という方がおみえかもしれません。**戦争を体験した人たちが亡くなられていく中、子どもたちに戦争の悲惨さ、命の大切さを訴えたいという思いから書き綴られた小説**だそうです。

現在ウクライナとロシアが戦争をし、イスラエルのガザ地区でも戦闘が起っています。元日には、「令和6年能登半島地震」という震度7を観測した大きな地震が起り、200人を超える多くの尊い命が失われる自然災害が発生しています。**これを機会に、平和について、命について、子どもたちにも一度立ち止まって考えてもらえたらと思っています。**歌手・俳優の福山雅治さんが「いま、日々を生きていることの幸せ」を歌で描きたいと、この映画の主題歌「想望(そうぼう)」を歌っています。福山さんも長崎県出身で祖父、父が戦争を体験されています。すごく感情が伝わってくるいい歌なので、一度聴いていただけたらと思います。

私は、映画を見てすごく感動したので、思わず漫画の本を上下2冊、小説本も買っていました。タブレットを使って電子図書で検索をすると、この映画の小説や漫画が読めるかもしれません。SNSの連続小説がきっかけでしたので「汐見夏衛(しおみなつえ) あの花が咲く丘で 君とまた出会えたら」で検索すると、小説の内容が出てきて実際に読むこともできます。また、**映画化はされていませんが「あの星が降る丘で 君とまた出会いたい」という汐見先生の小説があり、「あの花が咲く丘で 君とまた出会えたら」の小説の続編となっています。**主人公の百合が現代に戻り、戦争の体験をふまえ自分たちの生活を見つめ直していく内容も描かれていて、こちらの小説も一度読んでいただけたらと思います。あわただしく時間が過ぎていく現在、子どもたちが自分たちの日常生活について、一度立ち止まって振り返る、いいきっかけになるかもしれません。

小説なので、1～3年生は少し読むのが難しいかなあとも思いますが、4年生以上の子ならどんどん読み進められるぐらいの内容だと思います。私に声をかけていただいたら、小説や漫画を貸し出しますので、遠慮なく言ってください。漫画は2冊合わせて30分程度で読めると思います。

(文責 北住 昌文)